

名古屋大学精神療法セミナー

名古屋大学精神療法セミナーは、名古屋大学精神療法グループおよび名古屋心理療法研究会が主催し、2005年より継続しています。当初は、精神分析の訓練のためにタビストックに留学していた浅野元志先生・宮原研吾先生にイギリスの雰囲気そのままをお伝えいただくという趣旨で始まりましたが、その後、名古屋地区を中心に精神療法家・精神分析家を招いてご講演と公開スーパービジョンを提供するという現在の形式になっています。

名古屋大学精神療法セミナー これまでの講演一覧

- 第1回 (2005) 浅野元志 「精神分析的な精神（心理）療法という体験について」
- 第2回 (2006) 宮原研吾 「精神分析とあきらめること」
- 第3回 (2007) 牛島定信・平島奈津子・尾崎紀夫「境界性パーソナリティの現在」
- 第4回 (2008) 祖父江典人 「攻撃性をめぐるクライン派精神分析の光と影—クラインからビオンへの変遷」
- 第5回 (2009) 小川豊昭 「精神分析とヒア・アンド・ナウ」
- 第6回 (2010) 成田善弘 「心理療法をどう学ぶか」
- 第7回 (2011) 大橋一恵 「(題名なし)」
- 第8回 (2012) 岡田暁宣 「精神分析の一要素について」
- 第9回 (2013) 細澤仁 「解離性障害の精神療法」
- 第10回 (2014) 小泉規実男 「来談者と面接者との間で形作られる分析空間の中で—ある自己愛構造体終結例の面接過程と2年後の手紙から—」
- 第11回 (2015) 鈴木誠 「心理療法がとどかぬ世界へ—work discussion method—」
- 第12回 (2016) 早川すみ江「精神分析プレイセラピーにおける『不安—解釈—反応』の継起」
- 第13回 (2017) 李振雨「精神分析家のモーニング（グリーフ）—フロイトの抑うつ、クラインの悲しみ、ビオンの孤独—」
- 第14回 (2018) 神谷栄治「セラピーを成り立たせるもの—力動的な心理療法の視点から—」
- 第15回 (2019) 浅井真奈実「逆転移を治療にどう活かすのか—投影同一化の理解と利用—」
- 第16回 (2020.7.18 予定) 柴田恵理子「未定」